



多田 勉 議員

一問一答方式

その他の質問
●入会林野整備事業について

宮守町の地域経済活動に 再生事業の展開を

市長 沿線条件を生かした 生活圏づくりと新たな産業を

問……………

西の玄関口である宮守町の現状をどのように捉えているのか。地理的条件を生かした企業団地などの整備を図り、近隣からの雇用拡大も含め、地域の経済活動に波及されるような取り組みが必要である。

答(市長)……………

沿線に近いということを生かし、新しい生活圏をつくっていく必要がある。

ワークショップの提案をしている。諦めないでとにかく活性化していくための活動を起こしていく。

問……………

ワークショップを早急にやって、新たな地域の再生に繋がる事業の展開を積極的に進めるべきだ。企業の誘致も含め、若者が安心して生活で

答(市長)……………

誘致企業は常に受け入れるという考えでいる。市外に企業の誘致を求めるということもあるが、遠野に新しい産業を興すということもある。附馬牛町にあるキャトルセンターは遠野の強みである。キャトルセンターのシステムを取り入れながら宮守に1カ所、上郷、青笹に

生きる環境づくりが大事である。

1カ所を考えている。設備投資をサポートしながら地場産業、企業化に繋げ、遠野を畜産の有力地にしていかなければならない。それぞれの決断で事が運ばれると考えていただきたい。

市営住宅の健全な 維持管理を求める

市長 高齢者への利便性を考慮して 積極的に進める

問……………

市営住宅の管理は指定管理者に委託しているが、市営住宅の現状を見ると修繕が必要と思われる箇所が散見される。悪い状況を改善し、入居者に安心安全を提供していくべきだ。

答(市長)……………

令和3年度から5年度まで市営住宅は管理業務を指定管理している。委託することによって、休日や夜間の緊急連絡、修繕確認のスピードアップ、巡回訪問による安否確認などのメリットがある。修繕に関しては、金額の大きい部分は市に連絡がきて対応している。入居者からの満足度調査では、5段階評価で3以上が88%となっている。

問……………

笠平住宅は排水が悪く、住宅内の湿度が酷い。また、鷲崎住宅屋根の錆が進んでいるの



錆が進んでいる市営住宅の屋根

で健全な管理を求めたい。

答(市長)……………

実現するために順番を決めてやるが、同時に合理的活用と高齢者が使いやすい住宅であるか考えながら積極的に進めたい。

総務常任委員会行政視察

調査日 8月2日～4日
調査研究箇所 滋賀県東近江市・愛知県瀬戸市・愛知県大府市

参加委員
瀧本 孝一
小林 立栄
佐々木 恵美子
菊池 由紀夫
安部 重幸
佐々木 大三郎

◆滋賀県東近江市「地域おこし協力隊(林業)の取り組み」「地域商社(株)東近江あぐりステーション」

林業従事者の減少、高齢化により山の手入れが行き届かない全国共通の課題は、市内面



積の85%以上山林を有する本市においても同様であり、林業に特化した地域おこし協力隊が独立した後も安定した生活が出来るよう「林業+ α 」の支援を学んだ。

◆愛知県瀬戸市「患者等搬送事業者の認定制度」「災害時協力事業所登録制度」「せとAEDステーション認定制度」「菱野団地 新しい『住民バス』」

消防本部の担当者から3つの事業の実績、



課題等の説明を受けた。次に菱野団地の『住民バス』は、実際にバスに乗せていただき団地内を一周した。団地の人口は最盛期の約半分。高齢化が急伸展する中で、住民の足を守るため、市からバスの貸与を受け、有償ボランティア5名体制で運行している現状を学んだ。

◆友好都市の愛知県大府市「ウェルネスバレー構想」

構想の概要、これまでの取り組みなど詳しく説明を受けた。国立や県立の大きな医療機関と介護や福祉関係の施設が多く存在する恵まれた医療・健康づくりの環境を、どのように市民生活や産業に結び付けていくのか、様々な取り組みが試みられていることを学んだ。

教育民生常任委員会行政視察

調査日 8月2日～4日
調査研究箇所 ことども本の森

参加委員
ことども本の森「中之島」
兵庫県福崎町
菊池 巳喜男
菊池 浩士
佐々木 僚平
菊池 美也
萩野 幸弘
浅沼 幸雄

◆子ども本の森の運営状況について(管理運営、寄附金、来館者、イベント開催状況)

ことども本の森「中之島」と「神戸」はコンクリート打ちっ放しの新築構造物で周囲の環境にとけ込んだ違和感がない建物である。コロナ禍で制限されているもののイベントは積極的に行われており、子ども達のみならず幅広く多くの市民にも利用されていた。



また、2施設は、同じ指定管理者が運営しているため、共通のコンセプト、統一感が感じられた。「ことども本の森遠野」は、城下町の一角に古い呉服店の骨組みを生かした建造物で他の2館とは周囲の環境も建物そのものも違う「永遠の日本のふるさと遠野」「民話の里遠野」にふさわしい周囲の街並みにも溶け込んだ建造物である。今後は建

築家安藤忠雄氏が言うとおり「ことども本の森」3館がそれぞれの手法と連携のうえ、市民一丸となって「ことども本の森」を育てていく必要性を学んだ。

◆友好都市の兵庫県福崎町「兵庫県指定文化財の大庄屋三木家住宅」等

福崎町は、遠野物語の柳田國男先生ゆかりの「大庄屋三木家住宅」を視察。この三木家住宅は兵庫県指定文化財であるが、福崎町では、平成30年度に文化財保護法が改正される前から情報を収集し、文化財を保護・保存するだけでなく「活用」を図ろうと積極的に取り組んだ。その結果、ホテル運営は指定管理料なしで、民間が行っている。当市においても観光施設の在り方や教育行政との連携、交流人口拡大等に生かせる、取り組みを学んだ。